

## 池田大作について(その1)

## 1 池田先生は、世界の歴史に名を残す大指導者である

創価学会では聖教新聞などで、連日のように池田大作を「世界の大指導者」「人間主義に徹した大哲学者」「不屈の勇者」などと、さまざまに形容して礼賛しています。

このような常軌を逸した個人礼賛は、独裁的な国家や組織によく見られるものです。

創価学会の異常な池田礼賛は、まさしく創価学会が「池田教」になっている証拠であり、健全な集団ではないことを物語っています。

現在の池田大作は、日蓮大聖人の仏法に反逆し、三宝破壊の大謗法を犯している張本人ですから、「大指導者」「どころか、「民衆を不幸のどん底に突き落とす大謗法者」といふべきです。

## 2 「池田先生は、全世界から称号や勲章をたくさんもらっているからすばらしい」

池田大作に限らず、他の宗教団体においても教祖や会長が、海外の組織・集団から勲章・称号をもらっている例は数多くあります。立正佼成会の会長やオウム真理教の教祖も、外国の機関からいろいろな勲章や称号をもらっていることは衆知の事実です。

これらのことから、勲章や称号をたくさんもらうことが、その宗教の正しさを証明することになら

ないのは明らかです。

日蓮大聖人は弟子檀那に対して、「愚人にほめられたるは第一のはちなり」(開目抄 御書五五七ページ)

と戒められています。仏法の正邪を知らない機関や集団から、勲章や称号をもらって、それを大々的に宣伝している池田大作の姿は、まさしく日蓮大聖人に反逆していることのアかしといえます。

なお、海外に在住している元SGI幹部は、スペインのマドリード大学に対して、図書贈呈と引き替えに池田大作が名誉称号をもらえるよう、創価学会本部の指示によって依頼したことを証言しています。

このように池田大作への称号や勲章は、金品の寄付に対する見返りや返礼の類(たぐい)がほとんどなのです。

したがって称号や勲章は、池田大作が高潔な人格者であることのアかしにはまったくならないばかりか、むしろ池田大作の人間性の浅ましさを示しているものといえます。

## 3 「全世界に『日蓮仏法』を弘めたのは池田先生である」

日蓮正宗を離れて、別に「日蓮仏法」なるものはありません。もしそれがあるといふならば、それは異流義・邪説の類(たぐい)であって、日蓮大聖人の正しい教えとは無縁のものであり、そこには何ら

の功德もありません。

あなたの言い分は、あたかも池田大作個人が世界に仏法を弘めたものと受け取れますが、それは現実離れの妄想といふべきです。

かつて創価学会が日蓮正宗の信徒団体であった時代、会員は日蓮大聖人の立正安国の精神をもって、日本国内のみならず海外にまで正法を弘めるために精進していました。その結果、大聖人の仏法は世界にまで大きく広がっていったのです。したがって、この正法が海外に広まったのは、池田大作個人の力などではなく、多くの会員の精進努力によるものです。

しかし、今や創価学会は大聖人の仏法に背いているのですから、個々の会員が布教のために尽くした努力も功績も、すべてが水の泡となってしまいました。

この事実は、日蓮大聖人の仏法のうえからも、創価学会員にとっても、痛恨のきわみといふべきであり、その元凶は池田大作の驕慢謗法にあることを知るべきです。

## 4 「池田先生は、日蓮大聖人の仏法を証明した法華經の行者である」

かつて創価学会会長の秋谷栄之助は、池田大作について、

「もし先生がおられなければ、仏法の隆昌はなく、滅後末法の弘通は、虚妄となっていたに違いありません。」

## 創価学会の誓ひへ(4)

せん」(聖教新聞平成九年五月三日付)と公言し、あたかも池田大作が大聖人の仏法を証明したかのようにいっています。しかし、池田大作が日蓮大聖人の仏法の何を証明したというのでしょうか。

日蓮大聖人の仏法の根幹は、本門戒壇の大御本尊と唯授一人の血脈相伝にあるのですから、池田大作や創価学会の出現がなければ虚妄になっってしまうなどというものではありません。

「末法の弘通」も、日蓮大聖人の仏法の根幹が富士大石寺に厳然と伝えられている限り、虚妄になるようなものではないのです。しかも現在、日蓮正宗の僧俗が一致して、真の広宣流布に向かって着実に前進していることは紛れもない事実です。これこそ末法の弘通の姿にほかなりません。これらのことから秋谷の話は、池田大作に対する詔(へつら)いからくるお世辞以外の何ものでもありません。

また、創価学会の中堅幹部は、宗門攻撃のために作成した文書の中で、「我等の師匠池田先生は(中略)大聖人に続く二人目の『法華経の行者』になったのです」(創価学会資料二一八ページ)と記述しています。

法華経『勸持品』には、末法の法華経の行者は、三類の強敵による悪口罵詈(あつくめり)、刀杖瓦石(とうじょうがしやく)、数々見擯出(さくさくけんひんずい)等の王難を一身に受けることが説かれています。

末法に出現された日蓮大聖人は、釈尊が法華経に示されたこの予言をことごとく身で読まれ、一切衆生を救済するために、妙法弘通に一身を捧げられました。

創価学会では日蓮大聖人と池田大作を故意にダブらせて、池田大作を「二人目の法華経の行

者」などと礼賛しているのです。

しかし、国会の証人喚問から逃げ回り、宗門との問題においても、自らの名で反論することもできず、ことあるごとに側近幹部に「俺を守れ」と命令し、衣食住すべてにぜいたく三昧を尽くしている池田大作の、どこに日蓮大聖人の御精神があるのでしょうか。どこを探しても、まったくありませんか。

日蓮大聖人は、「されば無作の三身とは末法の法華経の行者なり」(御義口伝御書一七六五ページ)と仰せられ、「法華経の行者」とは無作三身、すなわち久遠元初の御本仏であると御教示されています。また第二十六世日寛上人は、「末法の法華経の行者、豈(あに)蓮祖聖人に非ずや」(開目抄愚記文段二二四ページ)と、末法の法華経の行者とは御本仏日蓮大聖人に限ることを御指南されています。

いまや池田大作は、日蓮大聖人の仏法を正しく伝えている日蓮正宗から破門され、正法誹謗の悪行を繰り返しているのですから、法華経の行者どころか「仏法破壊の極悪人」というべきなのです。したがって、池田大作を「日蓮大聖人の仏法を証明した法華経の行者」などと崇めることは、御本仏日蓮大聖人の教えに反逆する大謗法であることは明らかです。

### 5 「池田先生は、絶対に間違いない方である」

「間違いない方」といいますが、この世に完全な人間などはいませんし、間違いを起さなない人間もいないのです。

あなたが池田大作を「間違いない方」とい

うのは、信心のうえで、あるいは人格のうえでそのようにいうのでしよう。

しかし、宗教団体の指導者でありながら、池田大作は過去に何度も組織の運営方針や信仰面で過ちを犯しています。

その例を挙げると、昭和四十五年の「言論出版妨害問題」では、従来主張してきた王仏冥合・政教一致の方針を転換し、創価学会が言論出版を妨害したことについて公の席で謝罪しました。

また、「昭和五十二年路線」と呼ばれる教義逸脱問題においては、その発端は、池田大作の指導をもととした創価学会の教義・信仰上の誤りによるものであり、このときも宗門からの厳しい指摘を受けて、池田大作は大勢の宗門僧俗の前で謝罪しています。

また、平成二年十一月に勃発した創価学会問題も、池田大作が行った御法主上人誹謗の驕慢スピーチに端を発しています。

このように、あなたが「間違いない方」という池田大作は、創価学会の指導者としても、また信仰者としても、数々の大きな過ちを犯してきたことは明らかです。

なお、創価学会ではこれらの池田大作の過ちについて「池田先生が頭を下げたのは宗門を守るためだった」などといっていますが、これは詭弁にすぎません。

また、創価学会は池田大作の誤りを棚に上げて、「宗門では法主本仏論、法主無謬(むびゅう)論を主張するが、法主にも誤りはあるのだ」などと宗門を非難していますが、宗門において「法主本仏論」や「法主無謬論」などを主張したことはいまだかつて一度もありません。これは明らかに創価学会の捏造です。

ただし、宗祖以来の唯授一人の血脈を継承さ

れる御法主上人は、その御内証において御本仏の仏法的一切をそのまま受け継がれているのですから、法義や信徒教導という大事において、誤りはないのです。

宗門で「御法主上人に誤りはない」という意味は、御法主としての血脈法水にもとづく御教導に「誤りが無い」ということであって、日常の御振舞いに一切誤りがないということではないのです。

これに対して池田大作は、本分である宗教団体の指導者として致命的な過ちを犯しています。のみならず、多くの会員まで悪業の道に引きずり込んでいることに気づくべきです。

『折伏教本』より抜粋

